

科目名	社会福祉援助技術	教員名	たかの 高野 かずみ 和美	開 講	保育科	2 年次	前・後期
<p>・目的と内容</p> <p>近年、家庭や地域の子育ての力が弱まり、子どもへの虐待などさまざまな家庭の問題や子どもの心配な行動などが社会問題としてとりあげられています。こうした背景の中で保育所、幼稚園、学童保育所、母子通園センターなど地域の子どもたちに関わりのある施設・機関に支援が求められています。</p> <p>このような時代の要請に応じられるよう社会福祉援助技術の基礎について学びたいと考えています。</p> <p>演習科目なので教員が一方向的に話すのではなく、できる限り学生が意見を交換するグループワークやロールプレーにより「社会福祉の援助とはなにか」、からだと頭を使って実際に「やってみて学ぶ」方式をとっていきます。</p>							
<p>・授業計画 [ 単位数：2 単位、授業週数：30 回 ]</p>							
<p>[ 前期 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 社会福祉援助技術とは何か</li> <li>2. 社会福祉援助技術とは何か</li> <li>3. 援助における他者理解・自己理解</li> <li>4. 援助における他者理解・自己理解</li> <li>5. 援助における他者理解・自己理解</li> <li>6. 社会福祉援助と価値観</li> <li>7. 専門職としての倫理</li> <li>8. コミュニケーションの意義とその方法</li> <li>9. 非言語的コミュニケーション</li> <li>10. 言語的コミュニケーション</li> <li>11. 個人に対する援助 ( 1 ) 個別援助技術 ( ソーシャルケースワーク ) とは何か</li> <li>12. ( 2 ) 援助の原則</li> <li>13. ( 3 ) 援助の進め方</li> <li>14. ( 4 ) 記録と評価</li> <li>15. 前期のまとめ</li> </ol>				<p>[ 後期 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 面接の意義とその技法</li> <li>2. 面接の実際～ロールプレイ</li> <li>3. 面接の実際～ロールプレイ</li> <li>4. 集団援助技術 ( グループワーク ) とは何か</li> <li>5. グループワークの進め方</li> <li>6. グループワーク事例について</li> <li>7. 地域援助技術 ( コミュニティワーク ) とは何か</li> <li>8. チームアプローチ・ネットワークについて</li> <li>9. 家族への支援</li> <li>10. 家族への支援</li> <li>11. 事例検討</li> <li>12. 事例検討</li> <li>13. 事例検討</li> <li>14. 事例検討</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>			
<p>・講義の進め方</p> <p>講義形式のほかロールプレイやグループワークなど演習を多く取り入れます。</p>							
<p>・試験と成績評価</p> <p>出席回数・講義や演習への参加態度、参加意欲・レポートにより総合的に評価します。</p> <p>演習での知識や技能の積み重ねを大切に考えていますので、出席回数は特に重視します。</p>							
<p>・担当教員から受講生諸君へ</p> <p>子どもやその保護者を取り巻く状況はますます厳しくなっており、その支援にあたる専門職には大きな期待が寄せられています。社会福祉援助技術を学ぶなかで、専門職として何ができるのか、何をしなければならないのかを考えていける授業を皆さんとともに作っていきたいと思っています。</p>							
<p>・使用教材</p> <p>教科書 : 「保育者のための社会福祉援助技術」小林育子・小舘静枝 ( 編 ) 萌文書林</p> <p>参考書 : 特になし</p> <p>その他 : 必要な資料を適宜配布</p>							